

2021年1月12日 IRDAY

第3部（球団パート） 15：10-16：00

登壇者：

執行役員 スポーツコミュニティ部部长 萩野 稔之

(株)ファイターズ スポーツ&エンターテイメント

取締役 事業統括本部长 前沢 賢

取締役 同 副本部长 三谷 仁志

Q1.新球場開設後の利益の見通しについて

現在は、球場の所有・運営を自社で行っていないため、スポーツビジネスとしての主な収入源となる飲食・広告収入が球団収入とならない。また、球団として希望する一体的な改革も出来ない。23年以降は球団と球場の一体運営となり、現状連結決算で赤字を解消できる見込みとなっている。

Q2.新球場の建設決定に至る取締役会でのプロセスについて

NH 本体での取締役会の議論については、論点が多岐に渡っていた。上述した収益改善による財務価値の向上に留まらず、潜在的な財務価値の向上といった NHG に帰属する価値や、事業活動から創出される社会的価値など総合的に判断して建設を決定した。

Q3.新球場建設における ROIC と投資回収期間について

ROIC についての個別の開示は行っていないが、当社の資本コストから考えると遜色のない水準だと判断している。また、投資回収期間については様々な前提はあるが、13年程度を前提に計画している。

Q4.既存事業とのシナジーについて

1つは業務用向けに球場内の飲食事業で開発したメニューの商品化が上げられる。また、開業後は今まで以上に球団とコラボした量販向けの商品開発や販促活動も行っていく。

もう1つは、現在ボールパーク連携協議会において協議されている「食のカテゴリーと観光やスポーツについての連携」があげられる。ニッポンハムグループとして、各市町村へのバックアップを考えており、ふるさと納税の返礼品や、地元企業との連携によるお土産事業等への参入を図りたい。売上は主に加工事業本部になるが、既存事業の規模の拡大と成長に繋げていきたい。

Q5.計画策定時に想定していなかったリスク要因について

新型コロナウイルス感染症をリスクとして捉えている。リスク対策を十分練っていくことが必要だと再認識しており、今後はソフト面での対策を検討していく。しかしながら建設コスト 600 億円から上回ることは想定していない。

以上